

平成29年度 蔵書評価(産業・経済関連) 実施報告

実施日 平成29年10月18日

診断分野 330 経済、600 産業、670 商業

診断者 公益財団法人岐阜県産業経済振興センター 職員 2名

診断方法 各分野の開架の蔵書を診断者が確認し、蔵書の専門度、気づいた点を蔵書評価書に記入する。

診断結果(概要)

総評・留意点

- ・産業・経済の分野の本のボリュームが全体的に少ないと感じた。
- ・専門向けの本と一般向けの本が混在していて、調べものの目的をもって来た人にとっては使いにくいという印象である。
- ・トレンドのキーワード(IOT、RPA、AI 等)の本があまりなかったので、社会の流れや仕組みに合った本を増やすとよいと思う。
- ・現在の社会情勢をふまえると、中国語の図書の需要も高いと感じる。
- ・社会進出の増えてきた女性向けの本がもう少しあってもよいと思う。
- ・産経センターでは、話題の本を面だしているのので、県図書館でも実施してはどうかと思う。

330 経済

- ・経済理論についての本に偏りがあると感じたので、もう少し幅広くカバーするとよい。
- ・経済政策で「マイナス金利」など、最近の国内に関する本があるとよい。また、円ドル為替と景気動向を解説したような本があるとよい。
- ・ブラジル以外の外国人労働者の実態にかかる本もあるとよい。
- ・事業承継、M&A は若干古く感じるがそろっているように思う。
- ・BCP 関連は、数があるが中小企業向けのものがもう少しあるとよい。

600 産業

- ・地域創生関連はそれなりに充実しているように思う。成功事例集もこちらにあるとよい。
- ・度量衡や計量法については一般向けの本が充実しているように思う。

670 商業

- ・電子マネーやインターネットビジネス関連の本がもう少しあるとよい。

- ・商業史や商業経営については充実しているように感じる。
- ・広告・宣伝については、SNS などを利用してアピールする本があるとよい。
- ・マーケティングシェアの事実がわかる本があるとよい。
- ・物流について、最近の変化を含めた本があるとよい。

その他

- ・雑誌については、産業・商業分野がきちんとカバーされていると思う。
- ・CD-ROM 型のデータベース「CD・Eyes50」は、一般の人が使いこなすのは難しく、一定のスキルが必要だと感じる。

今後の対応

- ・書架を見やすく、また利用者に手にとってもらいやすくするために、資料の面だしについて検討する。
- ・最近の話題をふまえて、経済・産業・商業分野の資料の収集を検討する。
(例)IOT、RPA、AI、後継者問題、新規ビジネス、海外進出・販売
- ・別紙推薦書籍一覧を参考に、岐阜県図書館の収集範囲のうち、購入が可能な資料を収集する。
- ・産経センターが、新刊を注目する下記の出版社を参考にする。

矢野経済研究所

日刊工業新聞社

日経BP社

総合法令出版

日本経済新聞出版